



田中 健資

生年月 1990年10月福岡県生まれ
 最終学歴 関西大学
 システム理工学部
 電気電子情報工学科卒業
 業務経歴 2013年(株)大林組入社
 現在本社設備設計部所属
 ●担当した主なプロジェクト
 2013年 獨協医科大学病院
 2015年 横浜歯科技術専門学校
 2016年 東京女子医科大学耐震改修
 2017年 獨協埼玉医療センター改修
 2020年 筑波大学附属病院病棟B
 免震レトロフィット改修
 浦和ガーデンビル
 2022年
 2023年 両国国技館基幹設備等改修

■青年技術者のことば

建物内で人々に「安らぎ/快適」を与える様々な設備の原動力であり、更に「安全/安心」の提供をも担う重要インフラの一つである「電気設備」の計画を行う設備設計者には、「確かな技術力」の習得が大きな責務の一つであると考えます。

昨今、環境変化や災害対応、社会情勢の変化等により、信頼性の高いBCP計画の立案や最適な省エネ制御による環境負荷の低減、様多様性に配慮した室空間の提供等、設備設計者に課せられた使命は多い。

また、電気設備と密接な関係にあるAI/ICT分野の急激な成長/進歩により、新たな技術や可能性も次々に誕生している。

日々新たな情報を収集し、学習し、自身の設計に踏襲し、都度振り返り、反省点があればそれを改善し、継続したチャレンジを繰り返すことで、多くの人々に「安らぎ/快適」を提供することのできる、一流の設備設計者（技術者の高み）を目指し、日々の業務に尽力していきたい。

■すいせん者

河野哉穂
 (株)大林組 設計本部
 設備設計部 部長

病院機能を継続しながらの大規模改修
 ～筑波大学附属病院病棟B免震レトロフィット他設備全面改修～

■概要

筑波大学附属病院は茨城県内唯一の特定機能病院として高度な医療を提供し、地域の中核を担う重要な施設である。当該建物は増改築を繰り返し、複数の棟が入り組んだ構成となっている。病院の中心部に配置される「病棟B」は竣工後約40年という長い期間に渡り地域の医療を支えてきたが、建物老朽化が進んでおり、①耐震性能向上、②経年劣化した設備機器の更新、③入院患者や執務スタッフの室内居住環境改善、等が求められる状況であった。

そこで、既存病院の稼働を継続しながら免震装置を組み込む「免震レトロフィット改修」と「建屋内の内装および設備の全面更新」、改修工事エリア内の機能継続を意図した「けやきアネックス棟増築による移転先確保」等を実施することで、様々な課題の解決を目指した。



建物配置



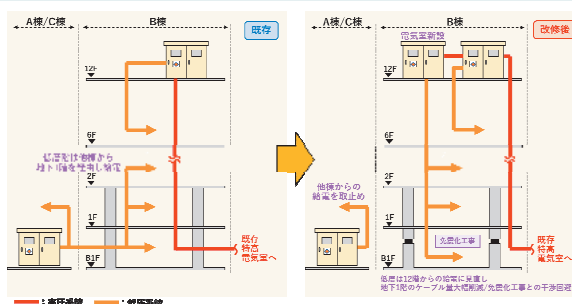
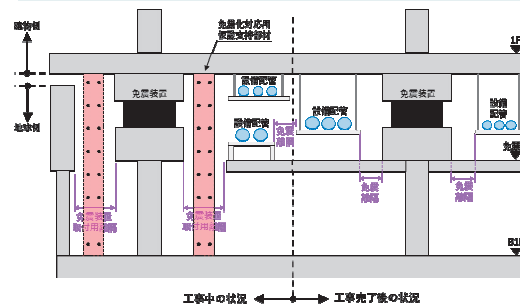
外観(病棟B)



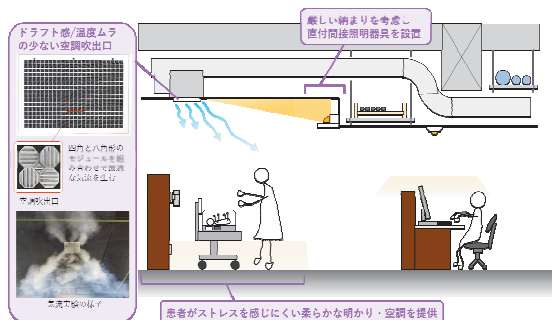
外観(けやきアネックス棟)

■機能継続と良質空間の提供

「病院」は患者の命を預かる施設である。建物内の設備機能停止は患者の生命維持活動停止に直結する。改修工事に伴う設備インフラの停止を最小限とすべく、十分に配慮した改修計画を立案するとともに、患者/スタッフ双方に配慮した良質空間提供のために、様々な創意工夫を凝らした。その中の一例を以下に示す。



免震化工事ステップおよび免震層内設備配置イメージ/電源系統の見直し



患者/スタッフ双方に配慮したNICU・GCU設備計画



改修後院内状況(病室/トイレ/院内レストラン等)